

福島が好き

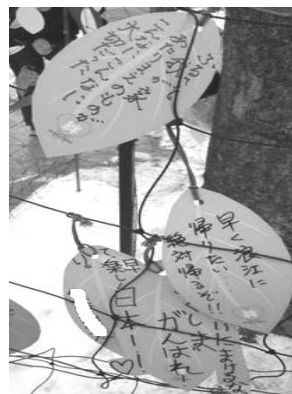
—あの日からの希望を紡ぎだすために—
原発事故の被害を最小限にするための情報紙
福島が好き、あなたが好き
だから知ってほしい、だから伝えたいこと
〈第1号〉 2012年 6月発行

—ふるさと我が家、あたりまえのものが、
こんなに こんなに、大切だった。
—早く浪江に帰りたい…、絶対帰るぞ！
パセオ通りの並木で見つけました。(写真)

今日も、明日も、これからも、
ずっと好きな人と一緒に
笑っていたい。
あなたと生きていきたい。

3月11日、あの日から世界が変わってしまいました。
とりかえすことのできないものが奪われてしまいました。
こたえのない時代のなかで
みんなが心のなかに不安の種を抱えています。

福島が好き、あなたが好き。
だから知ってほしい、
だから伝えたいこと。



このチラシを手にして下さった皆さまへ

2011年の秋、原発事故後初めて福島を訪れました。新聞やテレビでは伝えられない福島の皆さんの声が聞きたくて、タクシーや飲食店や住宅地で出会った方に声をかけました。話を聞かせて下さった方々の言葉です。

▼福島の人はおとなしすぎると言われるけど、みんな怒っていてもどうしたらいいのかわからないんです。国も県も市も、本当に何もしてくれませんからね。私たちも自分たちだけでは何をどうすればいいのかも分かりませんし、なんにもできません。私はもう避難する気持ちにはなれませんが、子どもたちにはなるべく帰ってこないように言っています。

▼福島の人間はモルモットです。

▼最初に避難した人はよほど知識のあった人だけだ。うちも少し前に孫が生まれて、幸い無事に生まれてくれたが、やはり心配だった。影響が出るのはこれからだから、だんだん大変になってくるんじゃないかな。どこに言っていけばいいのかも分からないから、皆おとなしくしているけど、内心は不安だし、皆いろいろ思っていると思う。

▼あきらめている人は多いです。県外の人からはなぜ福島の人は黙っているのだと思われているようです。でもここで毎日暮らしていると、ストレスだらけ、不安だらけで疲れ果て声をあげる気にもならないのです。

▼国は被害を予測するスピーディーの情報を隠しました。私たちは3号機が爆発した時も、何も知らずに給水車の前に並んでいたんですよ。国はパニックになるのを恐れて本当のことを知らさなかったのです。

「自分たちは見捨てられた」

話を聞く度に福島で出会った人たちの静かな怒りと、どうにもならないあきらめと不安を感じました。住民の人生やいのちが軽視されていることに怒りが込み上げました。

他府県の人間にとっても原発事故は人ごとではありません。

国や東京電力が見捨てても私たちは見捨てない。みんな同じ人間、同じいのちだから。そんな思いでこのチラシ(情報紙)をつくりました。

放射能は目に見えません。その影響についての見解や判断が専門家によっても違うために、混乱や不安が生じています。誰も経験したことのない事態のなかで、本当のことが隠されることのないように。住民に必要な情報が伝えられるように。この情報紙がそのきっかけになれば何よりです。

「福島が好き」

—(放射能への不安もあって)親は県外に就職して欲しいようだが、僕は福島が好きだから、福島で就職し、仕事をして、福島で暮らしていきたいと考えています。—
福島の飲食店で出会った大学生の言葉です。

「僕は福島が好きだから。」気持ちのこもったその言葉がとても印象的でタイトルに使わせてもらいました。

警戒区域の人、計画的避難区域の人、特定避難勧奨地点の人、避難区域には指定されていない場所で暮らしている人、県内に避難した人、県外に避難した人、自主避難の人…。

浜通り、中通り、会津…。

一人一人それぞれに立場や置かれている状況、事情は違っても誰もが原発事故の影響を受けています。同じ原発事故の被害者です。福島県民を対象にした新聞の世論調査でも暮らしのなかでストレスを感じている人、放射能への不安を感じている人は8割近くにのぼります。避難した人も同じです。

事故は終わっていません。言葉にだせないほど取り返しのつかない痛手を受けたからこそ、福島のみんなに共通する思いがある。それが「福島が好き」という言葉に託されていると感じました。話を聞かせてくれた大学生に感謝します。

そして今も原発事故の収束にあたっている作業員の方々の安全を心から祈ります。

【「福島が好き」編集部】

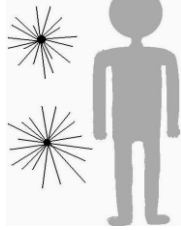
知ってる？「内部被ばく」 高線量＝危険、低線量＝まあ安心 でしょうか？

放射能は危険だけれど、低線量なら少しは安心と思いませんか？事故の直後「ただちに健康に影響はない」「X線検査より少ないから大丈夫」といった説明が繰り返されました。確かにただちにヒロシマ原爆のような急性被ばく症状の出た人はありませんでした。当初に比べれば空間線量も下がっています。低線量なら健康に影響はないのでしょうか。

▼被ばくには二種類があります。

体の外から放射線をあびる「外部被ばく」と、食べ物や呼吸で体内に放射性物質を取り込んでしまい、体の中で放射線をあびる「内部被ばく」です。

<外部被ばく>



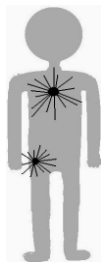
★内部被ばくは、外部被ばくとは

全く違うメカニズムで体内の細胞や遺伝子を傷つけます。

暖炉の火にあたるのが「外部被ばく」だとすれば、

「内部被ばく」は暖炉の炭を体内に入れるようなものです。

「内部被ばく」は低線量でも危険



<内部被ばく>

空間線量が下がっていても、放射性物質を体内に取り込むと「内部被ばく」します。放射性物質の粒子が飛散して、空中、水中、土中に混ざり、呼吸、飲水、食物を通じて体内に入ります。放射性物質は肺と胃から血液を通じて全身の組織に沈着します。放射線が継続的に遺伝子や細胞を傷つけます。細胞分裂の活発な子どもは特にその影響を大きく受けます。

これを混同しないことです。

内部被ばくは微量（低線量）でも危険です。

ただちに健康に影響がなくても、体のなかで持続的な被ばくが続きます。長期的な影響、内部被ばくの影響を考えるなら、低線量＝まあ安心 にはなりません。

微量でも体内に沈着した放射性物質は蓄積し、それが増えるほど体に影響を与えます。

だから、放射性物質を少しでも（呼吸から、食物から）体内に取り入れられないことが非常に大切です。

1986年のチェルノブイリ原発事故で起こったこと ～低線量被ばく・内部被ばくの影響～

▼事故当初、多くの住民が「大丈夫」と放射能の影響を軽んじていました。しかし数年後から深刻な内部被ばくの影響があらわれてきます。放射線は細胞の遺伝子を傷つけ、体内の活性酸素を増やします。がんや白血病の発症だけでなく免疫力が低下して“普通の病気の多発”が報告されるようになりました。癌、白血病、流産・死産、先天的な病気、心臓疾患、脳梗塞、糖尿病、感染症など様々な病気が増えました。集中力の低下、意欲がでない、うつ、精神疾患の増加も報告されています。

▼チェルノブイリ原発事故の被害を受けたベラルーシのゴメリ州保健センターによると、同州の18歳未満の子どもの罹患率は、事故の11年後に、循環器（心臓）13.3倍、呼吸器108.8倍、泌尿器48.0倍、消化器213.4倍、先天障害6.7倍、腫瘍性病変95.7倍に、それぞれ激増しています。甲状腺がんの発病者数は10年後に75倍、汚染地帯のゴメリ州だけをみると200倍に達します。

▼チェルノブイリと福島をそのまま比較することはできませんが、福島の18歳以下の子どもを対象とした甲状腺検査（2012年3月末発表）では、およそ3万8千人のうち64.2%が異常なし、0.5%に5ミリ以上の結節や20ミリ以上ののう胞、35.3%の子どもに5ミリ以下の結節や20ミリ以下ののう胞が見つっています。（参考として、2000年初頭に長崎で行われた7歳～14歳の子どもの250人の甲状腺エコー調査では子どもの甲状腺に結節やのう胞はほとんどありませんでした。）

子どもたちの健康を守るために必要な情報提供や対策がとられますように。

◆内部被ばくの影響を少しでも小さくするために出来ることをしましょう。 保養はとても有効です

まずは少しでも放射性物質を体内に取り込まないようにすることです。線量の高い場所に近づかない、飲食物、呼吸に注意します。食品の放射能測定を充実していくことが望まれます。放射性物質が埃や花粉に付着して呼吸から肺に入るのを防ぐためにマスクは有効です。埃の舞う風の強い日にはマスクをつけよう。また一般的にも被ばく防護としても、味噌、漬物、納豆などの発酵食品をとることは体の免疫力を高めると言われています。

◆一時的に汚染の少ない場所で過ごすこと＝「保養」（ほよう）は放射能で傷ついた体をリフレッシュするために大変有効です。人間の体には免疫力があり、遺伝子にも修復能力があります。保養は免疫力を高め、傷ついた遺伝子や細胞を修復します。取り込んだ放射能の排出をうながします。修復や排出が追いつかなければ内部被ばくの影響は徐々に増えていきますが、修復と排出の機会をつくることで、その影響を最小限に小さくすることができます。

チェルノブイリ原発事故においても保養の実施で子どもたちの体内のセシウムが減少したことが報告されています。

◆チェルノブイリ原発事故での避難の基準

○移住の義務ゾーン

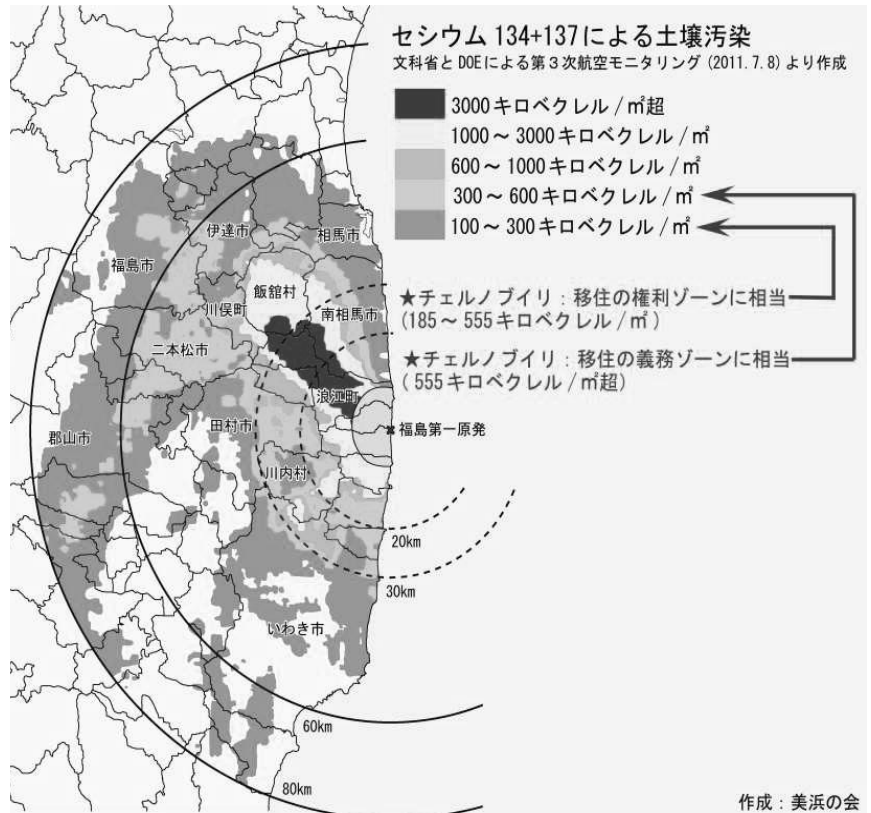
セシウム 137 の土壤汚染: 555 キロベクレル/㎡ 以上
個人の被ばく量: 年間5 ミリシーベルト以上

○移住の権利ゾーン

セシウム 137 土壤汚染: 185~555 キロベクレル/㎡以上
個人の被ばく量: 年間1ミリシーベルト以上

▼事故から5年後、ロシア、ウクライナ、ベラルーシなどは深刻な健康被害に対応するための「チェルノブイリ法」を採択しました。年間被ばく量1ミリシーベルト以上は「移住の権利ゾーン」とされ、危険を軽減する対策として毎年の健康診断や病気予防、安全な水や食料を提供すること等が定められました。ここでは「移住の権利」が認められ、避難する人には国が住居を提供し雇用や生活を支援しています。

▼福島においても住民のいのちと生活を守るために、同様の「住民保護対策」、「移住・避難の権利と保障」が認められてしかるべきです。一時避難や移住を希望する人にそれを保証するのは国の役割だと考えます。



福島原発事故の避難の基準は、年間被ばく量20ミリシーベルト以上です。この基準に不安の声があがっています。

そもそも日本の法律では一般の人の被ばく線量限度は年間1ミリシーベルトと規定されています。(原子炉等規制法、放射線障害防止法)
空間放射線量が毎時0.6マイクロシーベルトを越える場所、4万ベクレル/㎡を越える場所は「放射線管理区域」にあたります。

◆放射線管理区域とは? (労働安全衛生法 電離放射線障害防止規則、医療法 などにより設定される場所です)

原発の作業員やレントゲン技師など、放射線を扱う特別な仕事をする人だけが事前に訓練を受けて入ることのできる場所です。子どもはもちろん一般人は立ち入り禁止です。放射線管理区域では個人線量計の携行が義務付けられ、1㎡あたり4万ベクレルを越えるものを持ち出すことはできません。内部被ばくを避けるため飲食が禁止されています。寝ることも食べることもできない場所=本来そのなかで人が暮らすことの出来ない場所です。

▼原発事故の後、福島ではこの放射線管理区域と同じような場所が避難区域の外側にも広がり、そのなかで子どもたちが生活しています。国は原発事故を受けての暫定基準として、一般の人の被ばく限度を年間20ミリシーベルトまで緩和しました。

▼これまで原発で働く労働者が、がんや白血病で亡くなった場合の労災認定基準は、年5ミリシーベルトからと定められています。累積被ばく線量5.2ミリシーベルトで労災認定された事例もあります。

こうした場所で暮らすことに不安の声があがるのは当然です。

国はせめてチェルノブイリ原発事故並の保障を!

除染するほど「住めない」と思う ~福島大学准教授 荒木田岳さんのお話から~

~~昨年5月から、いち早く福島市内で通学路などの除染に取り組んできた。原発から60キロ離れた福島市で毎時30マイクロシーベルトくらいの場所が今も見つかる。除染に関わるたびに「こんなところに人が住んでいるのか」と思う。地形などの影響で除染しても線量はなかなか下がらない。下がっても雨が降れば戻ってしまう。家のなかで毎時2マイクロシーベルトあっても政府は特定避難勧奨地点には指定しない。人々は絶望のなかで被ばくし続けながら暮らしている。~~

荒木田さん自身、3・11の前に福島市内に家を建てるために土地を購入した。そこは線量の高いホットスポットの渡利地区。マイホームになるはずだった土地は今もそのままです。妻と子供は県外に避難させ、自分は固定資産税とローンを払うために福島に残って働いている。「子どものいない家に帰るのはさみしい。」という言葉に切なさがにじんでいました。【編集部】

※荒木田さんたち福島大学の有志メンバーが以下の副読本を作成しておられます。参考になさってください。

●「放射線と被ばくの問題を考えるための副読本」 発行: 福島大学 環境計画研究室 (2012年3月)

この副読本への問合せ先 → 放射線副読本研究会 事務局 (後藤忍研究室内) TEL: 024-548-5171

この副読本はインターネットから自由にプリントすることが出来ます。(タイトル名で検索して下さい)

- ▼原発さえなかったら。
- ▼大しんさいで、外で遊ばなく友だちとはなれて、話したり遊ばなくなつて悲しいです。9月からガラスバッチをつけて学校いって、去年よりもとてもいやな生活です。学校は土のいれかえをしたからだいじょうぶといっているけど少し心配です。(福島の子どもたちからの手紙)
- ▼教えて下さい、ぼくたちはどうなりますか?いつまで生きられますか?福島県に住めますか?(福島の子どもたちからの手紙)
- ▼子どもの免疫力がおちているように感じる。風邪が治りにくい。(福島で聞いた声)
- ▼(国や県に対して)同じ人間なのに、親の不安や気持が全くわかっていない。我が子のなかにある放射能が自分に全部移ってこないかと、寝ている子どもの身体をさする親の気持を本気で考えてほしい。影響があるとか、ないとか、そんなことは関係ないんです。今までなかったものが望みもしないのに大事な我が子のなかにある。それだけで怖いのです。不安でたまらないのです。(冊子「子どもの尿検査から見えてきたもの」より)
- ▼(事故後放射能の拡散を予測するスピーディーの情報が住民に知らされなかったことについて) 危ないと発表してくれていたなら、絶対別の方へ逃げていたと思います。幼い子どもを持つ母親として怒りを感じます。(TVのインタビュー)
- ▼「町民は、過去の歴史だけでなく、将来をも奪われてしまった。これはどんな価値よりも大切なものを奪われたということです。それは東京電力の補償など絶対に追いつかない」(双葉町、井戸川町長インタビュー)

各地の皆さんの声 ～「福島が好き」を応援していただいた皆さんです

- ▼福島の皆さんの気持を思うと胸が痛いです。政府やマスコミが本当のことさえ伝えてくれれば、今悩んでいる方達がどれだけ前にすすめるだろうと思います。(埼玉)
- ▼もし自分が同じ状況に置かれていたら、これから先どうなっていくのかと不安で不安でたまらないと思います。子どもに罪悪感を感じ、その思いに耐えられなくなり、あきらめの気持ちになつていくのではないかと思います。(岡山)
- ▼何の保障もない今の状況で、避難した方がいいと思つても、出来ない人の方が多いと思います。もし私だったら、家はみつかるとか、仕事はみつかるとか、生活していけるのか、と思います。住居や仕事、生活の保障は絶対に必要です。(大阪)
- ▼避難したくても出来ないこと、無理に大丈夫だと思つことが住民のストレスを増大させている。ストレスが免疫力を落とすのは事実で、住民への避難の支援が適切に行われればストレスは軽減する。免疫力を落とさずに身を守ることもなる。(兵庫)
- ▼「あの時こうしておけば…」 「…とは知らなかった」と後になって悔むようなことには絶対なつてほしくありません。何らかの手立てを講じることができるなら、健康被害を少しでも軽減する対策をとっていただきたいです。(愛知)
- ▼多くの人々が不安のなか生活されているのに国は何もしてくれない。そんな話が一体どこにあるんだ! 先の見えない除染。いたちごっこです。怒りがこみ上げてしまいます。安全かも、という言葉の裏に置いてきぼりにされる大切な命、人生。誰ひとり置いてきぼりにして欲しくないです。4号機も心配です。手遅れなんてないと思います。絶対に。私もできることをやっしていきたいです。(東京)
- ▼避難の権利は、基本的人権であり、国である前に人として即実行するように、私たちこそ働きかけないと思います。(京都)

<編集後記>

この情報紙は各地で福島に心を寄せる方々のカンパによって、30万部印刷、配布することができました。ご意見、ご感想を聞かせていただけたらうれしいです。その声を今後に生かします。

原発事故の被害を最小限にする。なるべく被ばくを避ける、体のためにできることをする。そのための情報を伝える。福島と福島に心を寄せる皆さんの気持と心をつなぐ。次号の計画です。ただ次号配布の予算がなく、次号をまた同じ地域に配布できるかどうかわかりません。80円切手と返信用封筒を編集部に送っていただければ必ず郵送いたします。また継続して発行するためのご支援をいただければありがたいです。守るべきは住民のいのちです。「国が被ばく防護のために必要な措置をとること、避難や移住の保障は当然」を世論にしたいです。

◆作成にあたって参考にした本・おすすめです

- 「内部被曝の脅威」(ちくま新書) 肥田舜太郎、鎌仲ひとみ著 720円
- 「避難の権利の確立のために」パンフレット (「FoE Japan」「フクロウの会」発行) 600円 入手方法は右下の連絡先まで問い合わせ下さい。

お店紹介 野菜カフェ「はもる」

福島市の八百屋さんです。西日本の有機野菜、米、味噌、卵、などを販売しています。店内に情報コーナーがあります。被ばく防護、免疫力を高める方法、各地の避難支援情報、夏休み・週末などに実施されている保養プランの情報などを自由にご覧になれます。



営業時間: (火～土) 11:00～17:30
定休日: 日・月・祝日
TEL: (024) 521-8670
福島市新町3-14 上州ビル 1F
福島駅東口から徒歩10分程。

◆「福島が好き」編集部 ◆ TEL 080-6178-6155
〒600-8127 京都市下京区 梅湊町 83-1
京都市市民活動総合センター メールボックス No. 5 4
ブログ <http://blog.goo.ne.jp/fukushimagasaki/>
Eメール fukushimagasaki@mail.goo.ne.jp
郵便振替口座 00960-9-322899 「福島が好き」編集部
ゆうちょ銀行 14480-30944311 「福島が好き」編集部
他銀行からは【店名】四四八【店番】448【普通】3094431

